斎藤道三の息子（1494ー1556）は斎藤義龍と名付けられた。平均身長は157 cmの時代に、義龍は197cmの堂々とした体躯を持ち、父親道三と同じくらい冷酷だった。 1554年、道三は60歳になり、後継者問題はますます緊急になっていた。義龍は道三の息子ではなく、道三の元主人土岐頼芸（1502〜1582）の息子であるという噂が広まっていた。別の噂では、道三は彼の他の息子、あるいは彼の義理の息子、織田信長（1534–1582）に跡目を継がせることを考えていると流布されていた。当時義龍は岐阜からそう遠くない鷺山城を拠点にしていた、そして、義龍は道三に後継者問題に決着をつける機会を造った。 1556年、義龍は兄弟を殺害し、斎藤氏の戦士美濃衆の大多数を掌握し、長良川の戦いで父親を攻撃した。道三は戦いで殺され、義龍は岐阜城の支配者となった。

信長は義父の復讐のため何度も義龍を滅ぼす軍を起こしたが、毎回目的を果たさず撤退した。 1559年に義龍は、京都旅行道中の信長を暗殺するために火縄銃の狙撃者を派遣した。しかしその試みは失敗した。義龍は1561年に病気で亡くなり、10代の息子、斉藤竜興が継承した。